

しろいしの日本一②

日本で最初に実施「市民体育大会」

第1回町民体育大会が開かれたのは、昭和4年の11月。

この年発足した白石体育協会が、それまで行われていた商店従業員の体育大会を、全町民に参加を呼びかける大会へと発展させたもので、町村規模の全住民を対象とした体育大会として日本で初めて実施されました。

大会の様子は、当時の雑誌やラジオ、映画などを通じて全国に紹介され、白石は「体育のまち」として日本中にその名を知られました。

おしどり競争や親子三代りレー、兄弟りレーといった種目も白石で考案され、全国に広まったものなのです。

以来、大会は市制施行とともに市民体育大会として今に引き継がれ、今年の10月で74回を数えます。



▲町民体育大会当時の「おしどり競争」(白石体協史より)



▲おしどり競争

日本民衆体育の鐘

体育のまち白石から、住民の体育振興の普及が「日本中に鳴り響くことを願い、昭和12年に当時の片倉家当主から寄贈されたもので、毎年体育大会で点打されています。



しろいしの日本一④

日本で唯一の内閣総理大臣賞「全日本こけしコンクール」

全日本こけしコンクールは、昭和34年、当時の皇太子殿下ご成婚を記念して、地場産業の振興を図るためにスタートして以来、今年で44回を数えました。

全国各地でこけしに関する同様のイベントが行われていますが、出品作品の最高賞に内閣総理大臣賞が授与されているのは、全国でただ一カ所、白石だけです。出展規模も全国最大級を誇ります。



▲第44回内閣総理大臣賞受賞作品



しろいしの日本一③

日本で唯一の国立野営場「国立南蔵王青少年野営場」

昭和54年の「国際児童年」をきっかけに文部省で野営場の整備構想が持ち上がり、福岡深谷地区の南蔵王山ろくで、昭和57年と61年の2回、世界的規模のポイスカウトのキャンプ大会「日本ジャンボリー」が開催されたことや、交通の便の良さなどから当地が選定され、昭和62年、日本で初めて「唯一の国立野営場」国立南蔵王青少年野営場」が開場しました。キャンプ場面積160ヘクタール、収容人員3,000名という広大な施設を誇ります。

平成9年には、天皇皇后両陛下をお迎えして全国植樹祭が開催され、毎年9月15日には、みやぎ蔵王高原マラソン大会が開催されています。



▲毎年野営場周辺で行われる「みやぎ蔵王高原マラソン」

しろいしの日本一⑤

日本で初めてのNPOによるスキー場運営「みやぎ蔵王白石スキー場」

民間企業から市が設備を譲り受けて以来、管理運営をNPO法人(特定非営利活動法人)「不忘アザレア」の皆さんにお願いしてきた「みやぎ蔵王白石スキー場」。

今冬で4シーズン目を迎えますが、日本で初めてのNPO法人による運営も定着し、「市民が運営する市民のスキー場」として家族連れからエキスパートまで幅広く親しまれています。今冬のオープンは12月20日(金)です。



▲市民のスキー場として親しまれている白石スキー場

しろいしの日本一⑥

自治体初の日本一「生ごみ資源化施設」

現在、福岡長袋(学校給食センター北側)に建設中のこの施設は、市内の旅館やホテルなどから分別回収した生ごみを、メタンガスと二酸化炭素を主成分とする「バイオガス」に分解し、エネルギー転換して温水や電力を生み出す施設で、自治体として全国初の施設となります。

完成は来年3月下旬。完成後は、学校給食センターや敷地内の温室に温水を供給して学校農園や親子農園づくりなどにより食と農の大切さを実証体験できる施設となります。

すでに完成している温室では、施設完成にさきかけて小中学校6校の児童生徒が、トマトやスイカなどを栽培したほか、9月からいちごが栽培されています。



▲生ゴミ資源化施設完成予想図

しろいしの日本一⑦

～戦後の木造復元天守では日本一の規模～「白石城三階櫓(天守閣)」

かつての白石城は明治7年に取り壊されましたが、平成7年3月、120年ぶりに三階櫓(天守閣)と大手門が本丸内に復元されました。材料や工法も昔どおりの復元天守は、石垣上からの高さが16.7m。戦後の木造復元天守としては日本一の規模を誇ります。

また、現在の建築基準法では、高さ13mを超える木造建築物の建築は禁じられていますが、白石城は、日本で初めて建設大臣の特別認定を受け、復元が可能になりました。



▲9月14日に行われたいちご苗植栽会



今月は、さまざまな白石の日本一を紹介しましたが、いずれの日本一も、もともとあった日本一ではありません。先人から今日の皆さんに至るまでの苦労や努力、そして白石を愛する想いが、結果として「日本一」に結びついたものではないでしょうか。

市では、市民が高い満足度を実感して暮らせるよう、市民と行政の多様な連携・協働によって「くらし日本一のまち」をつくり上げることを目指しています。物の豊かさから心の豊かさの時代へと変わってきている今日、数ある白石の日本一に誇りや敬意を持ちつつ、地域の連帯や文化・環境、そして医療や福祉など、さまざまなくらしの快適性「くらし日本一」を市民の皆さんとともに追い求めていきましょう。

今月号で紹介したもの以外に、皆さんに紹介したい「しろいしの日本一」がありましたら、ぜひ情報をお寄せください。